

『京都大学モデル』 女性研究者の包括的支援



啓発・広報

交流会

- ### I. 「交流・啓発・広報」事業
- ◆ 男女共同参画の男性向け啓発セミナー
 - ◆ ニュースレター(年8回)の発行と配布
シリーズ:「研究者になる!」
 - ◆ 「京都大学 男女共同参画への挑戦」出版
 - ◆ ポケゼミ「ジェンダーと科学」H20年度前期全学共通科目
オムニバス形式でさまざまな分野のジェンダー問題を考えるゼミ
 - ◆ 京都大学優秀女性研究者賞の設置(9月募集開始)
学生部門と若手女性研究者部門各1名。賞状と記念品
 - ◆ 出前講義
西大和学園、洛北高校、膳所高校(予定)
 - ◆ 女子院生・学生と女性教員との交流会
教育学・文学・理学・農学・工学・医学(予定)
 - ◆ 女子高校生と女性教員との交流会
車座フォーラム(40名の高校生と語る)
 - ◆ ジュニアキャンパスで「大学生と語るジェンダー」ゼミ
講師はポケゼミで学んだ大学生

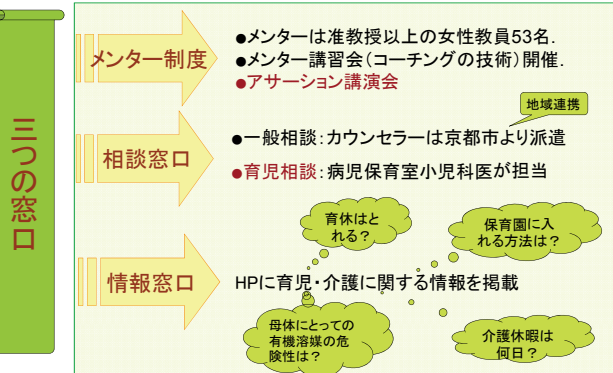
シンポジウム

性差の研究会

- ◆ 国際シンポジウム「大学の女性達」-アメリカの実情、日本の現実
Prof. P. S. Leboy: Recruiting and Retaining Women in Science
坂東昌子先生: 女性達のネットワーク
 - ◆ 「性差科学の最前線-生物学的性差と社会的性別をつなぐ-」
長谷川真理子先生: 性差の起源を探る
大隅典子先生: 認知機能の性差
 - ◆ 「女性研究者が創り出す研究・教育の未来」(予定)
後藤祥子先生, Dr. アンナキアルローニ他
稲葉カヨ センター長
- ### 第1回 「OECDのPISA調査結果に見られる性差」
- 松下佳代先生(京都大学) 08年1月14日
- ### 第2回 「脳の性差」
- 功刀由起子先生(愛知大学) 08年2月9日
- ### 第3回 「空間認知の性差」
- 竹内謙彰先生(立命館大学) 08年4月12日
- ### 第4回 「雌の戦略、雄の戦略:動物行動学の観点から」
- 日高敏隆先生(京都大学名誉教授) 08年6月21日
- ### 第5回 「脳の2つの性-セックスとジェンダー」
- 田中富久子先生(国際医療福祉大学) 08年9月6日
- ### 第6回 「性差医療」(仮)
- 大川玲子先生(千葉医療センター) 08年12月10日(予定)

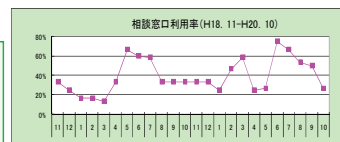


II. 「相談・指導」事業



一般相談室

- ◆ 京都市からカウンセラー1名派遣
- ◆ 1週間に3コマ(1コマ50分)
- ◆ センター内に相談室を設置
- ◆ 相談内容: 育児、研究室の人間関係、研究と家庭の両立、家族関係

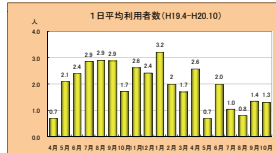


アサーショントレーニング講演会
講師: 田上時子氏
日時: 11月4日16時より
内容: 言いたいことを、はっきりと、うまく伝えるためのアサーショントレーニング入門

III. 「育児・介護支援」事業

病児保育室開室

- ◆ 開室時間 8:15~19:00
- ◆ 伝染性疾患を除く病中・病後児
- ◆ 受入人数 5名。全教職員学生対象
- ◆ 保育士 3名、看護師 2名、小児科医1名(小児科と併任)
- ◆ 料金 1時間500円(おやつ、昼食込み)(学生は半額)



病児保育講演会

演題: 病児保育と共に歩んだ日々
講師: 坂保智子氏
(枚方病児保育室医師)
日時: 2008年9月20日
会場: 文学部第6講義室

アンケート調査(開室後1年)

登録者を対象に病児保育室について調査。非利用者は保育室の状況をもっとしりがっている。

育児相談窓口開始(9月)

病児保育室の小児科医他が担当
女性研究者支援センターにて

「夏休みキッズサイエンススクール」

対象: 小学1年~3年
期間: 8月18日~22日
講師: 学内ボランティア
教員・院生
参加者: 11名/日

お迎えつき保育システム設置

対象: 原則として京都大学の女性研究者・女子学生
子ども: 2ヶ月~小学3年生
利用料金: 利用時間に応じる(学割あり)
運営: 民間企業に業務運営を委託
開室日: 08年10月~翌年3月31日
実施時間: 17時~22時
場所: 女性研究者支援センター

保育園入園待機乳児の保育室

対象: 保育園入園を待機している
京都大学の女性研究者・学生
子ども: 9週間~14ヶ月の乳児8名
利用料金: 5万円/月
運営: 民間企業に保育業務運営を委託
開室日: 08年9月~翌年3月31日
開室時間: 9時~18時
場所: 女性研究者支援センター
利用申込: 9月3名、10月6名、11月5名、12月以降は満室



IV. 「柔軟な就労形態による支援」事業

産休・育休・介護期間中における研究・実験補助者の雇用

- 対象は産休・育休・介護のため研究時間の確保が困難な女性研究者、院生は除く。
- 年2回の募集
- 応募者は補助者を決めて応募
- 年間約30名
- H20-2期から男性も応募可

利用者の声

私がこの支援センターから頂いた一番のポイントを挙げてみますと、実はプログラム一つを超えた精神的な支えではないかとも思います。育児と研究を両立するということは、時間、実務的、物理的な面でたゞでさえ困難が伴う上に、研究は必ずしもうまくいくとも限らず、困難な時ほど、育児をしながら続けていくべきかどうか、私も迷うわけです。そういう時に、考えることが2つあります。1つは、どうして自分がその研究をしようと思ったかの初心に戻って考え直してみます。私の場合、ハンディキャップ等を抱えて生きていく子どもたちを応援したいという思いから始まり、発達障害等の支援の研究をしているわけです。もう1つは、こういう育児をしながら研究をしているということ自体、どうなのか、を考えています。こういう時、女性研究者支援センターの存在自体が、組織として応援して下さっているというように思い、大変励みになっております。いろいろと有難うございました。(医学研究科研究員 船尾康子)

研究実験補助者雇用制度利用者の研究分野分布(人)

	H18	H19-1	H19-2	H20-1	H20-2
医学	9	7	9	7	9
理学	2	1	1	1	2
工学	2	1	1	1	1
農学	2	3	3	2	1
薬学	2	1	1	1	0
その他	2	2	4	4	4
合計	15	13	19	18	17

勤務体系の柔軟化に関する研究会



研究会会場風景

講師: 久本憲夫
京都大学経済学研究所教授

講師: 佐藤博樹 東京大学社会科学研究所教授
演題: 「女性の活躍の場の拡大とワークライフバランス: 制度導入から仕事の見直しを含めた運用へ」



講師: 武曾恵理 北野病院研究所副所長

アンケート調査の実施
目的: 女性研究者にとつての就労形態の追求。大学への提言
対象: 研究員・教員計550名
背景: 教員の育休取得者は僅少

在宅での高速インターネット回線
接続援助HPに案内掲示